成田市の小中・義務教育学校英語教育

自分の言葉で思いや考えを伝える

国際化が進む中、さまざまな場面で英語が使われています。市では、子どもたちの英語でのコミュニケーション力を高めるため、小学1年生から体験を重視した英語教育を行っています。



ティームティーチングで授業を盛り上げる

市独自のカリキュラムを実施

市では、文部科学省の制度を活用し、市独自のカリキュラムで英語教育を行っています。

小学校・義務教育学校前期課程では、歌やゲームのほか、買い物やレストランでの会話など身近な場面を想定した活動を通して、1年生から英語を学びます。楽しみながら英語に親しみ、外国の文化にも触れています。

中学校・義務教育学校後期課程では、標準授業時間数に加えて、拡充英語科を実施しています。市独自の指導案に基づき、英語で自分の考えを伝えたり、相手とやり取りしたりする活動を中心に授業を行っています。

学びの質を確かめ授業をより良く

市独自の英語教育をより良いものにするため、大学教授などの有識者で構成される検討委員会から授業の進め方や英語教育の方向性について助言を受けています。また、全国学力・学習状況調査や市の学力調査、小中英語教育アンケートの結果などを分析し、毎年カリキュラムを見直しています。

全ての市立学校に外国人英語講師を配置

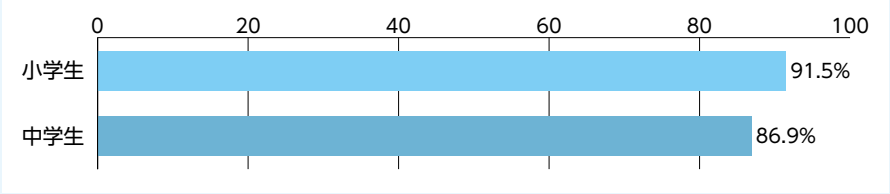
子どもたちが自然な英語に慣れ親しみ、外国の文化への理解を深められるよう、全ての市立学校に外国人英語講師（ＡＬＴ）を配置しています。

また、教育委員会には、各校のＡＬＴへの指導や助言などを行う主任ＡＬＴを2人配置。授業の進め方などについて助言し、ＡＬＴが安心して授業を行えるよう支えています。

さらに、日本人教員とＡＬＴを対象に研修会を開き、2人が協力して授業を進める「ティームティーチング」について学び、授業の充実につなげています。

令和7年度の英語教育アンケート結果

小中学生への質問「英語の授業は楽しいですか」に「楽しい」と回答した人の割合



児童・生徒からはこんな声が聞かれました

○小学生…ALTの先生と歌ったり、ゲームをしたりする英語アクティビティがとっても楽しい

○中学生…自分の意見を伝えられるようになり、もっと英語を話したいと思うようになった

授業をのぞいてみましょう

大栄みらい学園

2年生の授業では、ALTの「魚とチキンのどちらがいいですか」という質問に、「Fish, please.」「Chicken, please.」と答えました。



吾妻中学校

3年生の授業では、日本文化に関するクイズに挑戦。聞き取った内容から行事を推測し、友達と相談しながら考えを伝え合いました。



2人の先生と楽しく学ぶ

市立学校では、日本人教員とALTが協力して授業を進めています。和やかな雰囲気の中で、子どもたちは英語を使ったコミュニケーション活動に取り組みます。

小学校・義務教育学校前期課程の授業は、英語のあいさつや歌、簡単な会話からスタート。続いて、日本人教員とALTが日常の一場面を再現しながら、その日の学習内容を英語で紹介します。子どもたちは、やり取りを見たり聞いたりしながら、何を学ぶのかを考えます。その後、ゲームなどを通して英語表現を練習し、最後に学んだことを使ってまとめの活動をします。

中学校・義務教育学校後期課程の拡充英語科の授業では、教科書で学んだ英語を使って、成田の名所や名産物を紹介する活動などを行っています。

校外でも英語に挑戦

市立学校の中には、成田空港や修学旅行先で英語活動を行っている学校があります。この活動は、英語教育の研究が始まった当初、児童・生徒から「学校で学んだ英語を使って、外国人と交流をしてみたい」と声が上がったことをきっかけに始まりました。

子どもたちは、外国人観光客に声を掛け、簡単な会話をしたり、日本の文化を紹介したりしています。緊張する場面でも、授業で覚えたフレーズを使いながら、コミュニケーションに挑戦しています。

成田の英語教育が目指す姿

本市の英語教育は、英語力を身に付けることはもちろん、自分の気持ちや考えを相手にしっかり伝えたり、相手の考えを受け止めたりできる人間性を養うことを目指しています。

また、ALTの母国をはじめとし、外国の文化に触れる機会を多く持つことで、多文化共生・異文化理解の意識を育んでいます。

相手を思いやり、尊重する精神を育て、夢を持つ子どもたちの育成を目指し、英語教育の歩みを進めていきます。

※くわしくは教育指導課（☎2015-1582）へ。